



公開授業 & 公開PT会議

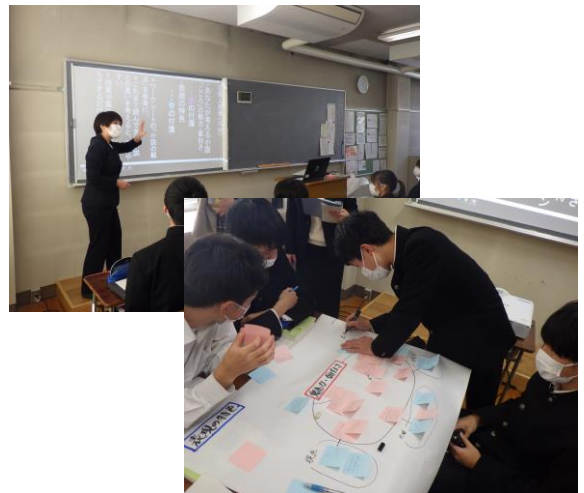
11月8日(火) 公開授業と公開PT会議を行い、校内・校外多くの先生方が参加してくださいました。
今回は、公開された授業と公開PT会議の内容をご紹介します。

小説『ころ』が定番教材として読み継がれる秘密は何か、 考えたことをレポートにまとめよう

国語科 田中里奈 教諭 2年7組 現代文

今回の公開授業は、全14時間のうちの10時間目の授業でした。レポートを書く前の準備として、小説『ころ』の「魅力や面白さ」と「表現の特色」を考えました。表現の仕方、語り手の特徴、人物の設定といった表現の特色に注目し、その効果を分析し、作品の魅力や面白さといった作品の価値の背景にあるものを考察するという難しい内容でしたが、生徒達は前向きに取り組んでいました。

『ころ』の魅力や、文章中の表現から根拠を抜き出しながら考えることでもっとわかりやすくなった。「他の班で出た意見も聞いて、本当に『ころ』にはたくさんの表現の工夫や魅力があるんだなと思った。」といった感想が聞かれました。



三角関数とその応用(数学Ⅱ)

数学科 杉本直人 教諭 1年1組 数学Ⅱ
松村剛 教諭 2年5組 数学Ⅲ

隣り合っているクラスという縁もあり、学年・学科を超えた合同授業を実施した。「学習したての探究科1年生」と「既習の普通科理系2年生」との交流ということで、生徒達にとっても新鮮だったと思う。様々な別解が考えられるような問題を提示することが、今後の課題です。



複素数平面～図形的な意味を考える

数学科 塚崎覚 教諭 2年4組 数学Ⅲ

「複素数平面」における図形的な性質を用いて、図形的に処理することを理解し、活用できることを目的に授業を行いました。複素数の計算には図形的な意味が含まれており、図形的に行うことの有用性を認識させる内容でした。いつもより対話も多く、協力しながら問題に向き合っていたことは良かったと思います。

しかし、準備した内容が多くなってしまったことと、基礎的な内容の定着不足のために時間がかかってしまい、その後の授業でフォローする形になりました。



心肺蘇生法実習

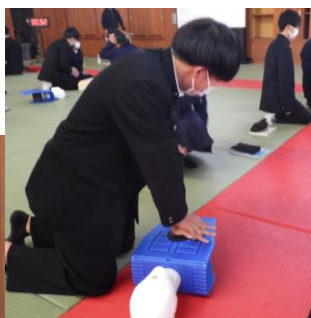
体育科 山崎 芳喜 教諭

養護教諭 佐々木あずさ 教諭 1年6組 保健体育

保健部(養護教諭)と連携し、生徒の実習と教員の講習会を兼ねて実施した。

けがや急病で目の前に人が倒れていたり、事故で救助が必要になったりした際に、積極的に応急手当をすることは社会の一員として大切なことであり、義務である。教員生活の最後に、生徒にも先生方にも心肺蘇生法の知識と技能、心構えを伝えたいと思い、昨年度から4回にわたり拙い授業を公開してきた。

参加された方もされなかった方も、今後このような機会があった際には積極的に参加し、研鑽を積んでいただきたいと思います。



食生活における持続可能性

家庭科 島田麻里 教諭 1年3組 家庭基礎

家庭基礎・食生活分野の最後として持続可能な食生活を実現するためのプレゼン資料の作成を行いました。班員との意見交換や調べ学習の中で、自分や家族の食生活が社会や環境に与える影響を知り、広い視野で持続可能な食生活について考えることができるようになることを目的としました。【自分たちが実現可能なこと】を条件とし、身近でコツコツとした取り組みがやがて人や社会、地球を守ることに繋がるのだと気付くきっかけになればと思います。



ダンス

体育科 濱本さとみ 教諭 1年2・4組 体育

ダンスは恥ずかしさから苦手意識を持たれることが多い領域であり、その意識との戦いで内容を深めるまで行かないことがある。そこで、昨今SNSのダンス動画を見て真似ることが高校生の中で浸透していることから、初の試みとして you tube 動画を活用した。抵抗なく踊る生徒が多く内容を深める授業に展開することができ、導入として良い試みだったと思う。

またグループ活動では、動画撮影で動きを確認したり一人ひとりみんなの前で踊って動きを確認したりと問題解決への工夫を行ったり、教え合いや話し合いを重ねたりしながら作品の完成に向けて取り組んだりして、深い学びにもつながったと感じている。

「地理B×物理×化学」

社会科 杉坂卓哉 教諭

理科 小原崇裕 松田庄平 教諭 2年6・7組

地理で、説明がうまくできない部分を他教科の専門教員から補完してもらい、理論的に深い理解を促すことを目標に実施した。内容は気圧帯および恒常風の方向についてである。

化学では、気圧とは何かという問いをコップの水と厚紙を使い、暖められた空気はなぜ上昇するのかという問いを実際に気球で実験的に説明し、さらに高圧・低圧、風はなぜ吹くのかを電車の乗客など身近で具体的な例で説明してもらった。

物理では、その恒常風がなぜ曲がるのか(貿易風や偏西風の方向)について、相対速度の観点から観覧車・運動会競技の台風の目、教員同士の並走などの動画を例に説明し、さらにペアで紙を動かしながら線を引くという体験的活動で理解を促した。



「現代の国語」×「美術」×「数学」 ～具体例を挙げながら文章の理解を深めよう～

国語科 辻崎千尋 教諭
芸術科 伊藤裕貴 教諭
数学科 福島健一郎 教諭 1年6組 現代の国語

TKF Project Presentations (英語による課題研究中間発表会)

英語科 鈴木秀人 山口隆子 山崎泰代 西口佳光
小松めぐみ 教諭 2年1・2組 活用英語

1年6組で「現代の国語」(授業者:辻崎)における単元「動的平衡の回復」(福岡伸一)で美術の伊藤裕貴先生と数学の福島健一郎先生をゲストティーチャーとしてお招きして教科横断型授業を行った。授業は教科書の内容を終えた段階で、さらに「動的平衡」の内容理解を深めるために、以下のように進めた。

- ①同著者の書籍『動的平衡』、『動的平衡』2 小学館新書)から引用した資料を読む(3分程度)
- ②美術・伊藤先生からレオナルド・ダ・ヴィンチの「渦巻描」を皮切りに、「美」「秩序」「黄金比」という観点から講義をいただく。(10分程度)
- ③数学・福島先生から「黄金比」→「フィボナッチ数列」→自然界に存在するひまわりの種子の配列について講義いただく。(10分程度)
- ④自然界にある「渦」「らせん」「黄金比」の例をグループで考え、クラス全体で共有し、単元全体をまとめる。(30分程度Jamboard使用)

【生徒の感想】

- ・国語と数学と美術なんて、どう頑張っても結びつかない学問だと思っていたが、渦巻きを通して、三教科の観点から授業を聞いて、一つの教科を学ぶときよりもより考えを深められたと思った。
- ・黄金比というのは自然界が作り出した動的平衡のバランスの代表のようなものということがわかりました。自然の流れというものには適当にそうになっているというわけではなくしっかりと理由があり、とても複雑な仕組みになっているので人間が勝手に弄るものではないなと思いました。



本年度4月から取り組んできた各グループの課題研究の中間発表を英語で行い、大学教授やクラスメートとの質疑応答を行った。今後の研究完成に向けた見通しを立てるとともに、プレゼンテーションや質疑応答に対応する実践力と態度を養うことを目的とした。

生徒の感想:「大学の先生に見ていただき、色々な視点からの意見をもらうことができた。これからの研究に役立つ意見ばかりだった。」「英語で質問に答えるのはなかなか難しかったが臨機応変に対応できるようになって良かった。」「プレゼンが楽しいなと初めて思った。」



公開PT会議

今回のPT会議は、校外の先生にも公開する形で行いました。会議内容は、授業改善プロジェクトチーム(PT)の活動報告、助言者の先生から講評、そしてミニ講演会という流れで実施いたしました。ここでは、独立行政法人 教職員支援機構の理事長 荒瀬 克己先生のミニ講演会についてご報告します。

元京都市立堀川高等学校校長でもある荒瀬先生は、キャリア形成の視点から本校の探究活動における『見通しをもって取り組む活動』の難しさについて触れた後、『教師の学びと生徒の学びは相似形である』というお話をしてくださいました。生徒の興味関心を引き出すために、まず私たち教員が探究心を持って物事に取り組む必要があると感じました。

